

| | | | | | | | |
|---|--|-----|------|----------|---|-------|------|
| 授業科目 | 処方解析学特論 Analysis of Prescription | | | 担当教員 | 岸原 健二、大磯 茂、西奥 剛、山口 拓、 神田 紘介、縄田 陽子、藤木 司 | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2 単位 | 開講年次・時期 | 1-3 年／前期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | |
| 1) 処方された医薬品の効果及び副作用を適切に評価できる。 2) 処方から患者の病態を推測し、今後の治療や処方を考察し、発表できる。 3) 処方された医薬品について、警告、禁忌、薬物相互作用などの情報を調査し、発表できる。 4) 提示された処方における問題点を指摘し、最適な処方を立案できる。 5) 処方内容のほかに考えられる適切な薬物療法を考案し、発表できる。 | | | | | | | |
| 観点 | 学生の授業における到達目標 | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | | |
| 関心・意欲 ・態度 | 授業に積極的に参加し、症例及び処方例の問題点を適切に指摘できる。 | | | 授業内討論・発表 | 21% | | |
| | | | | 総合討論・発表会 | 9% | | |
| 思考・判断 | 医薬品の効果及び副作用を適切に評価し、処方例の問題点の解決策を提示できる。 | | | 授業内討論・発表 | 14% | | |
| | | | | 総合討論・発表会 | 7% | | |
| 技能・表現 | 症例及び処方例の問題点及びその解決策について、自らの意見を発表できる。 | | | 授業内討論・発表 | 14% | | |
| | | | | 総合討論・発表会 | 7% | | |
| 知識・理解 | 処方された医薬品の効果、副作用、警告、禁忌、薬物相互作用等の医薬品情報を調査し、理解できる。 | | | 授業内討論・発表 | 21% | | |
| | | | | 総合討論・発表会 | 7% | | |
| 出 席 | | | | | | | 受験要件 |
| 合 計 | | | | | | | 100% |
| 評価基準および評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| 担当教員における授業内討論・発表の評価を各 10% (計 70%)、第 15 回目で実施する総合討論の評価を 30%とする。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>チーム医療において、臨床薬剤師は、医師の医療方針や処方意図、患者さんの病態・病因などを理解してはじめて、臨床の現場で活躍することができる。その際、臨床薬剤師は処方箋を入念に読み、処方解析することでより深い情報を読み取ることができる。本科目では、臨床薬剤師としてのスキルアップと最新の医薬品の処方を学ぶことを目的として、症例・処方から患者の病態および薬物治療に関わる患者の背景・情報、医薬品情報を読み解き、より適切な処方を提案できる能力を養成することを目的とする。</p> <p>7 名の担当教員が各 2 回の授業を担当し、それぞれが専門に関係する症例に対する処方例を提示する。1 回目の授業では、担当教員により関連する最新の医薬品の情報が解説され、代表的な処方例をもとに処方解析が行われる。2 回目では、予め配布された処方箋に関して履修者が処方解析の結果を発表し、さらに学生間でその内容に関して SDG を実施する。授業の最終回(15 回目)においては、各履修者が選択した処方例をもとに、総合討論・発表会を実施する。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| 教科書：なし 参考書：薬学生・薬剤師のための処方解析トレーニング帳、門林宗男・前田初男(編著)、化学同人 薬物療法問題集 コモンな 50 疾患・150 題で実力がつく！(月刊薬事・2018 年 10 月臨時増刊号・Vol. 60 No. 14) 病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法 I～V、一般社団法人日本医療薬学会編、南江堂 薬剤師トレーニングマガジン「Rp.+ レシピプラス」(南山堂) | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| 授業の主題となる疾患に関する病態生理、薬物療法と治療薬の医薬品情報について事前にしっかり予習し、授業に積極的に取り組んでほしい。 | | | | | | | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|----|-------------------------|--|--|
| 1 | 感染症に対する処方例 | 代表的な感染症に対する処方例を提示し、処方解析の結果を解説する。また、ワクチンに関する最新情報についても併せて解説する。(岸原) | 予習：感染症、抗菌薬・抗ウイルス薬及びワクチンに関する調査 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 2 | | 各履修者による処方解析の結果の発表を行い、履修者間でSGDを行う。(岸原) | 予習：配布された処方例の処方解析 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 3 | 循環器系疾患に対する処方例 | 代表的な循環器系疾患に対する処方例を提示し、処方解析の結果を解説する。(大磯) | 予習：循環器系疾患の治療薬に関する調査 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 4 | | 各履修者による処方解析の結果の発表を行い、履修者間でSGDを行う。(大磯) | 予習：配布された処方例の処方解析 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 5 | 代謝性疾患に対する処方例 | 代謝性疾患(糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症)に対する処方例を提示し、処方解析の結果を解説する。また、当該疾患に対する新規治療薬の情報も併せて解説する。(山口拓) | 予習：代謝性疾患に対する既存の治療薬の確認 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 6 | | 各履修者による処方解析の結果の発表を行い、履修者間でSGDを行う。(山口拓) | 予習：配布された処方例の処方解析 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 7 | 骨粗しょう症ならびに関節リウマチに対する処方例 | 代表的な骨粗しょう症ならびに関節リウマチに対する処方例を提示し、処方解析の結果を解説する。(西奥) | 予習：骨粗しょう症ならびに関節リウマチに関する調査 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 8 | | 各履修者による処方解析の結果の発表を行い、履修者間でSGDを行う。(西奥) | 予習：配布された処方例の処方解析 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 9 | がん化学療法に対する処方例 | 代表的ながん化学療法に対する処方例を提示し、処方解析の結果を解説する。また、がん化学療法に関する最新情報についても併せて解説する。(神田) | 予習：がん化学療法に関する調査 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 10 | | 各履修者による処方解析の結果の発表を行い、履修者間でSGDを行う。(神田) | 予習：配布された処方例の処方解析 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 11 | 神経精神疾患に対する処方例 | 代表的な神経精神疾患に対する処方例を提示し、処方解析の結果を解説する。また、当該疾患に対する新規治療薬の情報も併せて解説する。(縄田) | 予習：神経精神疾患に対する既存の治療薬の確認 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 12 | | 各履修者による処方解析の結果の発表を行い、履修者間でSGDを行う。(縄田) | 予習：配布された処方例の処方解析 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 13 | アレルギーに対する処方例 | 代表的なアレルギーに対する医薬品の処方について提示し解説する。アレルギーに対する新医薬品に関する処方についても解説する。(藤木) | 予習：主に抗アレルギー薬、抗炎症薬に関する調査 復習：当該講義内容の復習 |
| 14 | | 各履修者による処方解析結果の発表を行い、履修者間でSGDを行う。(藤木) | 予習：配布された処方例の処方解析 復習：当該授業内容の整理・復習 |
| 15 | 総合討論・発表会 | 各履修者が選択した処方例に関して調査結果を発表し、その内容に関して担当教員を含めて総合討論を実施する。(全員) | 予習：選択した処方例の処方解析と発表の準備 復習：総合討論の内容の復習 |

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。